

スポークスマン

From 中華人民共和國駐大阪総領事館

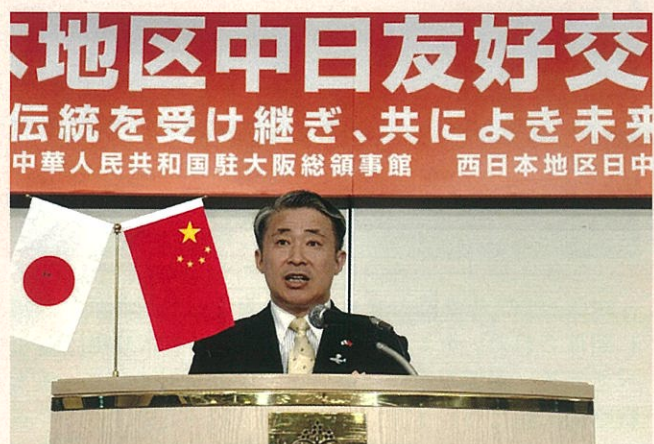
VOL.32 2025年1月

Spokesman From Consulate-General of The People's Republic of China in Osaka



過去を鑑に、 今を知り、未来を創ろう

——薛劍総領事の新年のご挨拶



2025年の新年にあたり、私は中国駐大阪総領事館を代表いたしまして、当館管内の二府十二県にお住まいの華僑同胞、中国系企業職員、留学生の皆様、および長きにわたって中日関係の発展にご関心とご支援をお寄せいただいている日本の各界の皆様にご挨拶を申し上げます。当館昨年の業務に多大なご支援をいただいたことを、心から感謝いたします。

過ぎ去った2024年は、中国が困難を克服して前進し、責任感をみせた一年でありました。新中国は成立から75周年を迎え、中国人民は中国共産党の力強い指導のもとで奮闘を続け、経済の急速な発展と社会の長期的安定という奇跡をつくりあげました。中国共産党第20期中央委員会第3回全体会議（20期3中全会）が開催され、中国の改革は途絶えることなく、開放の歩みも止まらないという強いシグナルをさらに発し、必ずや中国と世界の発展・進歩に新たなチャンスをもたらし、エネルギーを注入していくであります。中国経済の運行は全体として安定し、安定の中にも進歩が見られ、第1～第3四半期のGDPは前年比で4.8%増となり、世界の主要国のなかでもトップクラスにあります。中国の外交は正しい道を歩みながら革新を遂げ、習近平主席は4回にわたる重要な外国訪問を行い、200回近い二国・多国間協議活動に出席し、平和発展・協力ウィンウィンという時代の潮流をけん引してきました。平和共存五原則発表70周年記念大会、中国・アラブ諸国協力フォーラム、中国・アフリカ協力フォーラムサミットという三大国際会議を北京で主催され、運命を共にし、同じ地球上に住む者同士の助け合いという歴史的潮流を後押ししました。

2024年は中日両国がコンセンサスを再度確認し、不信を解

消し信頼を高め合う一年となりました。習近平主席は石破茂首相とアジア太平洋経済協力非公式首脳会議の期間中に会談を行い、中日双方が戦略的互惠関係の全面的推進に努め、新時代の要請にかなう建設的で安定的な中日関係の構築に力を入れていくことを再確認しました。上層部の牽引のもとで、2024年は両国の各レベルの交流がしだいに活発化し、経済貿易協力もたえず深まり、人的交流もコロナ前のレベルに近づきつつあります。このような積極的な勢いは人を奮い立たせるもので、ことのほか大切にするべきであります。

2024年は中国駐大阪総領事館にとって実りが多く、素晴らしい一年でありました。我々はコンセンサスを集結させ、岡山で第7回西日本地区中日友好交流大会を開催し、西日本各界の中日友好ムードを大いに高めました。また、「Look at China, Go to China」をスローガンに一連の訪中ツアーを計画・実施し、300人余りの各界の人々を中国訪問に招待し、実際に活力溢れるリアルな中国を体験してもらいました。また、文化により友情を深めるため、仏教・茶道・美術・音楽・漢字など多彩な文化交流活動を行い、両国の人々の心の奥底からの共鳴を呼び起こしました。さらに、広く友をつくり、各地方の議会・企業・キャンパスを訪れ、また古寺名刹や田畑にも足を踏み入れ、各界の人々と友好について語り合い、共に中日関係の改善・発展のための勢いやエネルギーを蓄えました。

2025年は中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利80周年にあたります。日本の皆様が過去の過ちから深い教訓と啓示を得て、再び平和的発展の決意を固め、隣国と付き合う正しい道を探し当ててくれることを期待しております。また、当館管内において今年は大阪・関西万博が開催されます。管内各界の皆様と共に、「歴史を直視し、未来を拓こう」の精神の下、「過去を鑑に、今を知り、未来を創ろう」をスローガンに掲げ、正しい歴史認識を共に発揚し、平和友好の初心を温め、互いに学びあう真心を確かなものとし、互惠ウィンウィンへの信念を強め、両国人民が「隣に住み、心が通じ合う」ことの実現を後押しし続け、中日関係の改善と発展を推進するための新たな貢献をしていきたいと願っております。

中華人民共和國駐大阪総領事

薛劍

2025年1月

1月29日～31日

教育部、中国国連教育科学文化機関全国委員会、上海市人民政府が上海で2024世界デジタル教育大会を共催した。

2月11日

世界水泳連盟がカタールの首都ドーハで記者会見を開き、2029年世界水泳選手権大会を北京で開催すると発表した。

3月5日



第14期全国人民代表大会第2回会議が北京で開催された。李強国務院総理が政府活動報告の中で、過去一年間(2023年)、中国の国内総生産は126兆元を超え、成長率は5.2%であったと指摘した。

4月10日

習近平中国共産党中央委員会総書記が北京で馬英九一行と会見した。習近平総書記は「兩岸同胞は同じく中華民族だ。青年は国家の希望で民族の未来である。兩岸の青年が良くてはじめて兩岸の未来が良くなる」と語った。

5月30日



習近平国家主席は北京の釣魚台国賓館で行われた中国・アラブ諸国協力フォーラム第10回閣僚級会議の開幕式に出席し、基調演説を行った。

6月25日

嫦娥6号が月の裏側で採取した岩石などのサンプルを収めたカプセルを携え無事帰還した。

7月15～18日

中国共産党第20期中央委員会第3回全体会議(20期3中全会)が北京で開催され、習近平が中央政治局の委託を受け

て行った活動報告を聴取・討論し、「改革をいっそう全面的に深化させ、中国式現代化を推進することに関する中共中央の決定」を審議・採決した。

7月26日～8月11日

パリで開かれた第33回夏季オリンピックで、中国のアスリートたちは勇敢にたくましく戦い、期待に背くことなく、金メダル40枚、銀メダル27枚、銅メダル24枚という快挙を成し遂げた。

9月4日～6日



中国・アフリカ協力フォーラムサミットが北京で成功裏に開催された。サミット期間中、習近平主席は出席したすべて元首・重要な政府首脳らと二国間会談を行い、重大な戦略的問題について深い意思疎通を行った。

10月22日～24日

習近平国家主席はロシアのカザンで開かれた第16回BRICS首脳会議に出席した。

11月13日～23日

習近平国家主席はペルーで開かれたアジア太平洋経済協力(APEC)第31回非公式首脳会議に出席し、また、ペルーへの国事訪問を行った。さらに、ブラジルで開かれた第19回G20サミットに出席し、ブラジルへの国事訪問を行った。

12月18日～20日

習近平国家主席はマカオの祖国復帰25周年祝賀大会およびマカオ特別行政区第6期政府就任式典に出席するためマカオに赴き、また、マカオ特別行政区を視察した。



39兆7861億元



1月～11月、中国の貨物輸出入総額は39兆7861億元(約841兆6000億円)で、同期比4.9%増であった。そのうち輸出は6.7%増の23兆383億元(約487兆3009億円)で、輸入は2.4%増の16兆7477億元(約354兆3000億円)であった。

のべ2921万8000人

1月～11月、全国の出入国審査場から入国した外国人はのべ2921万8000人で、前年同期比86.2%増となり、そのうちビザなし入国がのべ1744万6000人で、前年同期比123.3%増となった。

7065億キロ



全国の年間食糧生産量は7065億キロで、前年よりも110億9000万キロ増え、1.6%増となり、初めて7000億キロの舞台に乗った。

10万本

中国は質の高い「一带一路」共同建設を深く着実に推し進めており、「中欧班列」(中国と欧州を結ぶ国際定期貨物列車)の運行本数が10万本を突破した。

46億5839万元

2024年1月～11月、全国固定資産投資(農家は含まず)が46億5839万元(約985兆4億円)に達し、前年同期比で3.3%増となった。

のべ40億800万人



2024年1月～11月、全国の鉄道旅客輸送数が累計でのべ40億800万人となり、年間の鉄道旅客輸送数が初めて40億人を突破し、史上最高となった。

1000万台



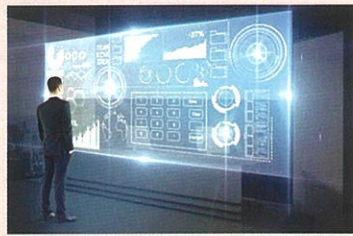
11月14日時点で、2024年中国新エネルギー自動車生産・販売台数は1000万台を突破し、中国は世界で初めて新エネルギー自動車の生産が一年で1000万台を超える国となった。

1742億8000万件

2024年1月～11月、郵政業界の配達業務量が累計で1742億8000万件となり、前年同期比19.1%増であった。なかでも宅配便の配達業務量は累計1572億9000万件となり、前年同期比21.4%増であった。

数智化(デジスマ化)

デジタル化とスマート化の融合体のことで、デジタル化の基礎の上に自己学習、意思決定の最適化、予測分析などのスマート化された高級技術を導入することである。これにより生産効率を高めたり、資源配置を最適化したり、管理レベルやイノベーション能力を向上させることができる。中国共産党第20期3中全会では、「企業がデジタル・スマート技術を用いて従来型産業を改善・アップグレードするよう支援する」と提起された。「人工知能(AI)+工業製造」「AI+生成設計」「AI+教育」「AI+医療」「AI+金融」などのデジタル化・スマート化技術により、従来型産業のデジタル化・スマート化へのモデルチェンジを後押しする。



善のための人工知能



人工知能(AI)の発展は、人類の幸福をより増進させ、産業変革や経済発展を推進することができるだけでなく、社会をよりよくし、持続可能な発展を実現させるものでなくてはならない。2024年6月12日、習近平主席は国連貿易開発会議(UNCTAD)設立60周年記念式典の開幕式にビデオメッセージを寄せ、「人を中心とした、善のためのAIを堅持し、国連の枠組み内においてAIルールとガバナンスを強化する」ことを再び強調した。「人を中心」「善のためのAI」という発展理念は、すでに世界のよいAI生態を打ち立てる基礎となっている。

city不city(オシャレでしょ?)

「保保熊」というハンドルネームの米国人バイロガーが中国旅行の体験をショートムービーに記録し、その中で、彼は妹と「上海はcity不city(上海ってcityかどうか?)」「すごくcity!」と対話した。「city」はもともと都市という意味だが、都市化されたという意味もある。「保保熊」によると、彼が対話の中で使った「city」は、トレンドイ、オシャレ、現代的でスリリング、楽しいという感覚をもつものだ。「保保熊」の動画がネットでバズると、「city不city」という言葉も流行語となった。中国が144時間トランジットビザ免除政策を実施して以来、中国に観光にやってくる外国人はどんどん増え、美しい景色にのびのびとした食事、高速鉄道による旅、そして親切で親しみやすい中国人民が、外国人に「city」と称賛されるようになった。7月4日、外交部の毛寧報道官は「city不city」という流行語について触れた際に、「中国は絶えず人的交流をうながす措置の利便化を強化しており、外国人の中国旅行をより便利で快適なものにしていきます」と語った。「皆さんどうぞ中国にいらしてください!」



リラックス感



一般的にプレッシャーに直面したとき、落ち着いてそれに対応し、自らを大切に、あわてず、焦らないという心理状態を指す。「リラックス感」はあるバイロガーの経験から人気を博するようになった言葉で、一家で旅行した際、荷物がすべて戻されてしまったのに、彼らは騒がず、怒らず、互いを非難し合ったりもせず、予定を組みなおして、終始リラックス感あふれるムードでいたことに由来する。バイロガーがこのことをSNSにアップした後、「リラックス感」が話題となった。2024年パリ・オリンピック期間中、中国チームの2000年代生まれの若い選手たちのオリンピックにおける「リラックス」感が注目された。彼らはプレッシャーに直面しても対しても自分を失うことなく対応し、新世代のリラックス感や明るい心が青春の自信を示しており、驚嘆させられる試合成績を残した。

小孩哥/小孩姐(子供兄貴/子供姉貴)

ある面で人より優れた才能をもつ子供のこと。彼らは年こそ若い非凡な才能をもち、大人も敬服せざるを得ず、そこで「子供」の後に敬意を示す哥/姐(兄貴/姉貴)という言葉添えて彼らと呼んだことに由来する。ある「小孩哥」は11歳でロケットを造り、ある「小孩姐」は14歳でオリンピック記録を達成し、ともに広範な影響を与えた。現在、子供の個性の発展と総合的素質の育成がより重視される社会ムードが強まっていて、子供たちは潜在能力を発揮させるより多くのチャンスを得て、より多くの支援や是認を得ている。



ドラマ

『繁花』

この物語の舞台は1990年代の上海で、阿宝をはじめとする無名の人物が時機や個人の才能を利用し、試練に満ちた社会のうねりの中で勇敢に困難に立ち向かい、くじけることのない努力と決意でしだいに自分の運命を変え、個人的成長を遂げる物語である。



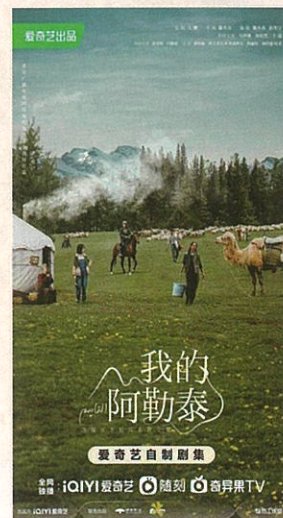
『南来北往』



このドラマは故郷に10年ぶりに戻ってきた年老いた刑事馬魁と、若く血気盛んで有能な鉄道警察官汪新の二人が、互いに不満を持ち、対立や誤解を重ねながらも手を取り合って戦い、意気投合するに至るまでの物語である。列車のなかのさまざまな人生や、隣同士の人情を通して中国の革新と発展を描き、新旧両世代の鉄道警察官が警察魂を受け継いでいく物語である。

『私のアルタイ』

李娟の同名のエッセイ集を映像化したもので、アルタイで育った漢族の少女李文秀は、大都市で文学の夢を追い求めながらもたびたび壁にぶち当たり、故郷に戻って小さな売店をやっている母と寄り添って生きていくことを余儀なくされた。現地の少年バタイと知り合った後、彼女は故郷の美しさをしだいに発見していくという物語である。このドラマは大自然を舞台とし、新疆アルタイの壮麗な風景を余すところなく再現したものとなっている。



映画

『熱辣滚烫』(YOLO 百円の恋)

日本映画『百円の恋』をリメイクしたもので、長年引きこもっていた杜樂瑩がボクシングコーチである昊坤と知り合った後、次々とやってくる試練を克服し、熱い人生をスタートさせるという物語だ。2月17日、この映画の春節クルールの興行成績が26億800万元を突破し、中国の春節に上映したストーリー映画の興行記録を更新した。



『好东西』

この物語はシングルマザーの王鉄梅が子供の王茉莉を連れて新しい家に引っ越した後、隣に住む小葉と知り合い、この性格が全く異なる二人の女性がトラウマや新たな試練に挑み、互いを思いやり、慰め合う物語である。この作品は「感情観」を中心に、すえ、上海という都市にいる「地方移住者」たちをモデルに創作されたものであり、現在中国の都市で生活する男女を描いた作品となっている。



『飛馳人生2』(ペガサス2)

これは自動車教習所の教官をする張馳が古くからの友人孫宇強と記星を呼び集め、天才的レーサーの厲小海と、いつも技能試験第二段階に合格できない教習所の生徒・劉顕徳とともに、どんなに苦しくても明るさを失わないドタバタ一座を結成し、最後の一回となるバインブルク・ラリーに挑むという物語である。



1月25日



李強國務院総理が北京の人民大会堂で日本経済団体連合会の十倉雅和会長、日中経済協会の進藤孝生会長、日本商工会議所の小林健会頭が率いる日本経済界訪中団と会見した。

3月29日

王毅中共中央政治局委員兼外交部部長が北京で日本の元首相でボアオ・アジアフォーラム前理事長の福田康夫氏と会見した。王毅氏は福田氏が一貫してボアオ・アジアフォーラムの発展に関心を寄せ、そのために積極的な貢献を行っていることを称賛し、日本などの地域・国家が中国とともにアジアの平和・発展という大局を守ってほしいと語った。

5月26日



李強國務院総理はソウルで開かれた第9回中日韓首脳会議に出席し、その期間中に岸田文雄首相（当時）と会見した。李強総理は、中国は日本と多分野・多ルート・多レベルの友好交流を継続して行い、さらに人的往來の利便を高め、積極的に青少年交流を行い、絶えず中日友好協力の民意の基礎を固めていく意向を示した。

7月22日

全国人民代表大会常務委員会の趙樂際委員長は北京で日本の海江田万里衆議院副議長と会見した。趙樂際委員長は、「中国の全国人民代表大会は日本の国会と友好的な往來を保ち、各クラスの立法機関との交流を強化することを望んでいる。日本の国会議員が中国を訪れ、リアルで全面的・立体的な中国を知ることが歓迎する」と語った。

7月26日

王毅中共中央政治局委員兼外交部部長がビエンチャンで上川洋子外相（当時）と会見した。王毅部長は「中日双方は向き合って進み、戦略互惠関係を真に確実に実施すべきだ」と語った。

9月23日

王毅中共中央政治局委員兼外交部部長はニューヨークで上川洋子外相（当時）と会見した。王毅部長は「日本は中国とともに、両国関係の正しい方向に沿って、中日関係の健全で安定した発展を推し進めてほしい」と語った。

11月4日

王毅中共中央政治局委員兼中央外事工作委員會弁公室主任が北京で日本の秋葉剛男国家安全保障局長兼内閣特別顧問と中日ハイレベル政治対話メカニズム協議を行った。

11月15日



習近平国家主席はペルーのリマで行われたアジア太平洋経済協力（APEC）非公式首脳会議への出席期間中に日本の石破茂首相と会見した。習近平主席は、「中国は日本と共に、中日間の4つの政治文書の確立した原則と方向に照らして、『互いに協力のパートナーであり、互いに脅威とならない』という中日の重要な共通認識を堅持し、共に中日の戦略的互惠関係の全面的推進に努め、新たな時代の要請にかなう建設的で安定的な関係構築に尽力していきたい」と語った。

11月22日

外交部は、2024年11月30日から2025年12月31日まで、中国は日本などの国の一般旅券を所持する人員に対し、ビザ免除政策を試行することを決定したと発表した。

(一) 大阪・関西万博

2025年大阪・関西万博は、2025年4月13日～10月13日に、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される。中国館は今回の万博で用地面積が最大の自前で建設する海外パビリオンの一つで、「自然と共に生きるコミュニティの構築——グリーン発展の未来社会」をテーマとし、外観は中国の伝統的な書道の巻物を広げた形をモチーフにしたもので、展覧は中国のグリーン発展の生きた実践に基づく、人と自然との調和・共生という発展理念を集中して説明するものである。



(二) 中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利80周年



2025年は中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争勝利80周年にあたる。われわれは中国人民抗日戦争および世界反ファシズム戦争の勝利を記念するのは、正しい第二次世界大戦史観を發揚させ、歴史を鑑とし、未来に向かって前進し、中日両国の人々が代々にわたって友好をつなげ、世界各国の人民が末長く平和と安定を享受できるようにするためである。日本の多くの有識者が過去の過ちから深い教訓と啓示を得て、再び平和的発展の決意を固め、隣国と付き合う正しい道を探し当ててくれることを信じ、願っている。

(三) 総領事館管内の各府県と中国都市との友好都市提携を記念する節目の年

2025年は大阪府と上海市の友好提携45周年、兵庫県と海南省の友好提携35周年、愛媛県と陝西省の友好提携10周年にあたる。各府県と中国の省・市が友好協定を締結して以来、各自の強みを十分に發揮しつつも互いに積極的に学び合い、経済・貿易、文化、教育、健康・健康などの広範な分野で交流・協力を展開し、各地の人々に幸福をもたらすだけでなく、両国関係の発展にポジティブ・エネルギーを蓄積することにもなった。





写真で振り返る中国駐大阪総領事館の2024年



1月16日、中国平和外交シンポジウム



2月2日、2025年大阪・関西万博中国パビリオン起工式



2月6日、上海市・大阪市友好都市提携50周年記念シンポジウム



2月6日、「龍迎新春、共築未来」迎春レセプション



2月27日、薛劍総領事の関西プレスクラブでの講演



3月8日、国際女性デー「人類運命共同体の中の女性の力」シンポジウム・レセプション



3月19日、2024年度広報アドバイザー交代式及び第一回中日友好勝手連大会



3月20日、一日総領事館 in 岡山



3月23日、「拈花微笑 以心伝心」蘭溪道隆禅師来日伝法記念シンポジウム



4月17日、中国人国際交流員交流会



4月18日、劇場版『再会長江』鑑賞会



5月11日、「領事保護キャンペーンがキャンパスへ——奈良特別会」イベント



5月17日、「初心を振り返り、未来を展望——一つの中国原則を堅持」特別シンポジウム



5月21日、第二回大阪国際お茶の日



7月23日、「中日盆栽交流 in 香川県」イベント



8月14日、「中日学生会議」代表団の領事館来館交流イベント



8月30日、第7回西日本地区中日友好交流大会



9月11日、中国式現代化と世界——新中国成立75周年記念シンポジウム



9月20日、日本大学生訪中団報告会



9月25日、中華人民共和国成立75周年祝賀レセプション



9月28日、中日友好餃子交流会



9月29日、「私とタンタン」記念写真集発行式およびタンタン感謝の会



10月18～20日、薛劍総領事が業務エリアの稲刈り手伝いイベントに参加



10月29日、総領事館オープンデーのイベント



10月31日、2024大阪・中国映画週間



11月1日、2024年度日本人新疆ツアー報告会



11月23日、「中日友好家庭」大集合パーティー・「私の中日友好家庭」作文・ショート動画コンクール授賞式



11月28日、孫文「大アジア主義」演説100周年記念シンポジウム



12月16日、「船承友好」鑑真号船上レセプション

中華人民共和国駐大阪総領事館

〒550-0004 大阪府大阪市西区鞠本町3-9-2
連絡先: 06-6445-9481 (代表)

制作協力: 中国外文局アジア太平洋広報センター
(人民中国雑誌社、中国報道雑誌社)



総領事館
Twitter



総領事
Twitter



総領事館
Facebook



総領事館
YouTube



総領事館
TikTok



総領事館
HP